

活動団体： 日本国際ボランティアセンター

～問題の根本にこだわる～

団体の活動



日本国際ボランティアセンター

JVC はあらゆる人々が自然と共存し、安心してともに生きられる社会をめざし、1)自然資源の保全と住民主権の尊重、2)公正な社会の実現と権利の回復、3)違いを認め合う共生社会の実現、4)政策提言による社会の変革をミッションとして活動しています。現在はラオス、南アフリカ、パレスチナ、スーダン/南スーダン、コリアの5か国で活動を実施しています。

<https://www.ngo-jvc.net/>



活動村で法律カレンダーを配布(ラオス)



補習校の朝礼に並ぶ児童たち(スーダン)

インターンプロフィール

後藤 美紀



小学生の頃にマザーテレサの伝記を読み、国際協力に関心をもつ。大学卒業後は一般企業と在日イエメン共和国大使館での勤務を経て、自分が主体的に支援活動に携わりたいという思いが強くなり、2022年5月、JVCへ入職。ラオス事業とスーダン事業を担当。

所属団体で活動するきっかけ

パレスチナが壁で分断されているのを現地で目の当たりにした際、問題の核心が見えるまでとことん向き合いたいと思いました。そこで JVC のポリシーの1つである「問題の根本にこだわる」に共感し応募しました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

ラオス事業(地域開発)とスーダン事業(人道・教育支援)を担当しています。主に支援者対応として事業の活動を支援して下さる個人寄付者へのお礼状の送付、助成金の申請書や報告書の作成、および会計管理をしています。また、広報とも協力し現地の活動について SNS などでの情報発信やイベント企画・運営も行っています。

1年目を終えて感じたこと

私たちの活動は支援者からの支援があってこそ成り立っています。日々活動地で起こっていることがあまり報道されないなか、一人でも多くの人に広報を通して現地の状況を発信し、伝えることの難しさと重要さを改めて学びました。事業担当として、現地の状況と人々の声を届ける使命感を一層強く感じています。

スキルアップのためにしていること

外部の研修や報告会に参加し、普段の業務やプロジェクトに活かせることがないかを考えています。また、見聞を広げるため担当事業国、地域のニュースや web に掲載されている記事をチェックするようにしています。

海外研修について ~どこで何を行う予定？

事業担当であるラオスに渡航する予定です。セコン県で行っている共有資源管理支援を通じた環境保全プロジェクトの活動状況のモニタリングの他、中間評価を行う予定です。

今後のビジョンは？

引き続き、現地での活動が円滑に行えることを第一に自分の役割を理解し遂行していきます。この1年を通じて学んだことを実践するとともに、新たに事業形成や教育支援の専門知識を学び、事業に還元していきたいと思えます。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

国際協力にはさまざまな形、課題があるため自分がどういった形で関わりたいか、また、自分には何ができるかを考えて行動を起こすことが重要だと思います。自分を信じて行動に移せば必ず目指しているものに繋がります。

団体のアピール

JVC は1980年に設立され、2023 年で43 年目を迎えます。差別、分断、抑圧といった構造的な暴力の中で困難な境遇に置かれた人々に寄り添い、みずから立ち上がろうとする人々と手を携え活動を続けています。